

2021年10月4日

各位

会社名 株式会社新生銀行  
 代表者名 代表取締役社長 工藤 英之  
 (コード番号 : 8303 東証第一部)

SHINSEI SUSTAINABLE  
IMPACT ASSESSMENT

## 【サステナブルインパクト】ティーキャピタルパートナーズ株式会社が運営する PE ファンドをスポンサーとする株式会社 WITH ホールディングスに対するソーシャルローンの実行について

当行は、持続可能性や ESG/SDGs の観点に、環境・社会・経済など社会全般に対して正のインパクトをもたらすことを目的とする社会的インパクトの概念を融合させた「サステナブルインパクト」の取り組みを推進しています。社会課題に対して正のインパクトをもたらす企業や事業に対し、お客さまとの継続的な対話を通じて投融資を行ってまいります。

このたび、当行は、株式会社 WITH ホールディングス(埼玉県川口市、代表取締役 新井 実、以下「借入人」)による株式会社アンジェリカ(東京都目黒区、代表取締役 末永 勝久)の買収資金を用途とする LBO ローンを組成し、2021年10月1日に「新生ソーシャルローン」として、貸付を実行しました。借入人は、ティーキャピタルパートナーズ株式会社(東京都千代田区、代表取締役社長 佐々木 康二)が PE ファンドを通じてスポンサーとなる事業持ち株会社で、傘下に保育施設の運営会社等を擁しています。なお、当行が、LBO ローンを新生ソーシャルローンとして提供することは本件が初めてです。

「新生ソーシャルローン」とは、特定の社会課題への対処やその軽減に資する事業や社会的インパクトをもたらす事業に資金用途を限定したローンであり、2020年5月に当行が策定した、「新生ソーシャルファイナンス・フレームワーク」<sup>※1</sup>に適合するファイナンスです。

借入人/対象案件	株式会社 WITH ホールディングス向け LBO ローン
資金用途	東京都を中心に保育施設及び学童保育施設を運営する株式会社アンジェリカ(以下、「対象会社」)を買収するための資金
スポンサー	ティーキャピタルパートナーズ株式会社
事業の社会的意義	「子どもを対象とした「必要不可欠なサービスへのアクセス」、「女性」及び「仕事と子育てを両立する人々」を対象とした「社会経済的向上及びエンパワーメント」の提供 ① 子どもが健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境の提供、幼児教育の充実 ② 女性活躍推進及びワーク・ライフ・バランスの実現
本プロジェクトがもたらす社会的インパクトと社会的課題の整合性	SDGs では主に「目標 4 質の高い教育をみんなに」、「目標 5 ジェンダー平等を実現しよう」、「目標 8 働きがいも経済成長も」等に貢献すると考えられる。内閣府「持続可能な開発目標(SDGs)を達成するための具体的施策」や厚生労働省「新子育て安心プラン」等の国の方針、東京都「子供・子育て支援総合計画」等の地域の方針とも整合すると評価した。
その他評価のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 借入人は「園児・保護者・介護利用者そして職員、WITH に関わる全ての人が素敵な人生を送るためにこの組織は存在する」を経営理念とし、「子どもたちの安全を守るため」「質の高い保育を実施するため」の取り組みを重視した事業運営を行っている。対象会社も、保育を通じて子どもたちの未来を創造し、働く母親の社会での活躍を支援することを掲げ、農園と連携した食育や「えほん保育園」など特徴のある保育事業を展開していることから、今回の買収は両社の組織目標の実現に貢献するものと評価した。</li> <li>✓ 借入人は保育士の適正な労務管理や子育て支援に積極的であり、職員向けの無料託児所や保育料補助制度を設けていることから、借入人と対象会社が保育施設運営ノウハウや知見を相互補完することで、追加的な社会的インパクト創出が期待される。</li> </ul>

※1 新生ソーシャルファイナンス・フレームワークを含む、「新生グリーン/ソーシャル/サステナビリティファイナンス・フレームワーク」の概要については、別添の参考資料をご参照ください。

## 「新生グリーン/ソーシャル/サステナビリティファイナンス・フレームワーク」について

近年、企業の資金調達手段の一つとして、グリーンローン、ソーシャルローン、サステナビリティローンなど、環境・社会課題の改善に資する事業に資金使途が限定されたファイナンスを活用する例が増えています。当行においても、これらのファイナンスの実施を通じて、お客さまの環境・社会課題の改善に資する取り組みをサポートするために、「新生グリーンファイナンス・フレームワーク」、「新生ソーシャルファイナンス・フレームワーク」、「新生サステナビリティファイナンス・フレームワーク」（以下、総称して「本フレームワーク」）を、2020年5月に策定しました。

当行が本フレームワークに基づくファイナンスを行うにあたっては、社内で独立性を確保した評価室が、資金使途や資金管理方法、潜在的な環境・社会面への負の影響等を評価し、本フレームワークへの適合性を確認します。

また、本フレームワークについては、関連原則と統合的であること<sup>※2</sup>、本フレームワークの社内の実施体制が堅固であることについて、株式会社日本格付研究所（JCR）より、第三者意見を取得しています。

なお、当行では、本フレームワークの適合性の確認にあたって、以下のロゴマークを使用することとしています。

### 【環境性】



SHINSEI  
SUSTAINABLE  
IMPACT  
ASSESSMENT

### 【社会性】



SHINSEI  
SUSTAINABLE  
IMPACT  
ASSESSMENT

※2 本フレームワークでは、国内外での指針である以下の関連原則と統合した運営を行います。

- ・ 国際資本市場協会（ICMA）が公表している「グリーンボンド原則」、「ソーシャルボンド原則」、「サステナビリティボンド・ガイドライン」
- ・ ローン・マーケット・アソシエーション（LMA）ならびにアジア太平洋ローン・マーケット・アソシエーションが策定した「グリーンローン原則」

以上